

プロダクトからロボットのデザインへ

大阪芸術大学准教授 中川志信氏インタビュー

ロボットの写真 Photo by Osaki
さんがつうき
三月宛

次世代サービスロボットが、今後のロボット市場を大きく開拓すると期待されて久しい。だが、いまだにビジネスとして盛り上がっているとは言い難い。

ロボットが私たちの日常生活の中で、家電製品と同様に受け入れられるためには、どのようなアプローチがあるのだろうか？ 本稿では、家電製品のプロダクトデザインに長年携わり、現在は、ロボットデザインの研究開発に従事する中川志信氏にスポットをあてた。



なかがわ し のぶ
中川 志信

大阪府出身。1990年、武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒業。松下電器産業株式会社パナソニックデザイン入社。デジタルビデオカメラ、掃除機、アウトドア商品等担当。グッドデザイン賞多数受賞。欧州デジタルビデオカメラ大賞(パナソニック NV-GS70)受賞。近年はロボットデザインを中心に研究を進める。日本ロボット学会、人間工学会、日本デザイン学会正会員。人間工学の測る視点からインダストリアルデザインを行う実践者を目指している。趣味は登山。



●【ロボキューブ】(株式会社システムワット)

組合せ型ロボットユニット「ロボキューブ」。5cmのブロックを組み合わせるとプログラムが変わり、異なった光や音が発生する。

●【Robotch II】
(ビー・エル・オートテック株式会社)

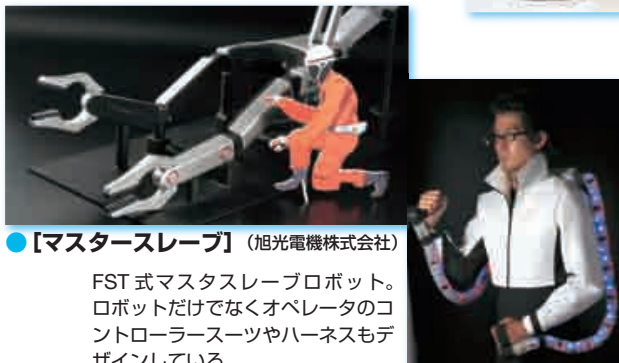


神戸をイメージする観光案内ロボット「Robotch II」。水兵さんをモチーフにしたチャラシ配布ロボット。



●【モイラ】(神戸大学工学部機械工学科 大須賀研究室)

災害時に倒壊した建造物内部などへ侵入し、要救助者を安全かつ迅速に探索するレスキューロボット。



●【マスタースリーブ】(旭光電機株式会社)

FST式マスタースリーブロボット。ロボットだけでなくオペレータのコントローラースーツやハーネスもデザインしている。



●【Chapit】(株式会社レイトロン)

音声認識コミュニケーションロボット「Chapit」。コンセプトから意匠、声、モーションまで一気通貫してデザインしている。



●【VariBo デザインバージョン】

学習用ロボットキット「VariBo」にホビー指向のデザインを追加。教材用途以外への市場拡大を目指している。

最初に、中川氏がデザインしたロボットを紹介しよう。

昨年、(財)国際デザイン交流協会が主催した「国際デザインコンペティション2006」のテーマが「ROBOT」だった。世界中から424作品の応募があり、その中で中川氏のデザインしたロボットが銀賞、銅賞に選ばれた。銀賞に輝いたのが、(株)システムワットの「プログラミングという概念を取り除いたコミュニケーションロボ(ロボキューブ)」であり、銅賞に選ばれたのが、神戸大学工学部大須賀教授の「蛇型機構を用いた「人にやさしい」レスキューロボット(モイラ)」だ。

また、「グッドデザインひょうご」のビジネス部門において、平成17年度に神戸らしい「かわいい水兵さん」をイメージしたロボット「Robotch II」が入賞、平成18年度は学習

用二足歩行ロボットの「VariBo デザインバージョン」が大賞を受賞している。

その他、未来をイメージした衣装を身につけるマスタースリーブ(旭光電機(株))やコミュニケーションロボット「Chapit」(株)レイトロンのデザインを手がけている。

ご覧いただいたように、中川氏がデザインしたロボットは様々なジャンルに渡っている。中川氏はどのようなスタンスでロボットのデザインに関わってきたのだろうか？ ロボットとの出会いから、プロダクトデザインの手法を取り入れたロボットデザインの考え方を交えて、今後のロボットデザインのあり方についてお話を伺った。